

自立活動(通級による指導)学習指導案

情緒障害通級指導教室(あけぼの教室) 2人(男子2)

指導者 T1 古川圭子

T2 福田雅紀

1 題材 そめっこあそびをしよう

2 子どもの実態

| | |
|--------------|--|
| A 児 (5年女) | 興味のあることには意欲的に取り組むが、活動に見通しをもてなかったり、思いどおりにできなかったりすると情緒的に不安定になることがある。また、他者に対して気持ちをうまく伝えられず、一方的なかかわりになることもあるが、相手を気遣う優しさも見せるなど、一緒に楽しく活動することができるようになりつつある。 |
| B 児 (5年男) | 活動中、注意がそれたり、想像と現実が混ざった会話をしたりすることがある。また、予定の変更や状況の変化に対応することが難しく、自分の気持ちをコントロールするのに時間がかかってしまうこともあるが、他者とかわる中で徐々に気持ちを切り替えることができるようになりつつある。 |

3 題材のねらい

草木の汁等を使って布やシャツを染めたり、模様を付けたりする活動を通して、友達と一緒についたり、手伝ってもらったりするなど他者とかわる喜びを味わうことができるようにするとともに、手順カードを見て確認するなど自分なりに活動に見通しをもって取り組むことができるようにする。

4 本時(4/6)

(1) 目標

| | | |
|------|--------------|---|
| 個人目標 | A 児 (5年女) | ○ 模様づくりの手順カードを見て活動に見通しをもつことで、途中で情緒的に不安定にならずに楽しく活動することができる。 |
| | B 児 (5年男) | ○ 模様づくりの手順カードを見ながら順序よく活動することで、最後まで他のことに気持ちを移さずに模様づくりを楽しむことができる。 |

(2) 展開(55分間)

| 時間 | 主な学習活動 | 教師の支援 評価 |
|-------------|--|---|
| (分) (15) | 1 はじまりの会をする。 朝のあいさつ→あけぼのソング→健康観察→おはなしタイム→今日のあけぼの→ふれあいタイム(ソーシャルスキル指導)→めあての設定 | ○ ふれあいタイムでは、「途中で活動をやめてしまった子ども」の絵を見せて、自分だったらどうするかを考えるようにするとともに、本時においても最後まで活動することが大事であることを確認する。 |
| (30) | 2 そめっこ遊びをする。 (1) 先週の活動を振り返るとともに、本時の活動を確認する。 ・ いろいろな草花の汁で布に色を付ける(前時)。 ・ 道具を使って布に模様を付ける(本時)。 (2) 模様を付けるための手順に見通しをもつ。 ・ 手順カードで模様のつくり方を確認する。 | ○ 前時に自分たちで染めた布とともに、教師が模様を付けて染めた布を見せることで、自分たちもやってみたいという意欲を高める。 ○ 模様を付けるための手順を写真カードで示し、それを確認することで模様づくりの活動に見通しをもつことができるようにする。また、そのカードを黒板に貼っておくことで、途中で手順が分からなくなっても自分で確認できるようにする。 |
| (10) | (3) 洗濯ばさみや輪ゴムを使って模様を付ける。 ア 洗濯ばさみや輪ゴムで布をとめる。 イ 布を染め液に浸ける。 ウ 布を取り出し絞る。 エ 布を干してドライヤーで乾かす。 オ 洗濯ばさみや輪ゴムをはずして模様を確認する。 (4) できあがった布を見せ合い感想を発表する。 | ○ 模様がはっきり付き、子ども自身が活動の結果を確認しやすいように、本時ではコーヒーカーレー等の色が付きやすい染料を使う。 ○ ドライヤーで乾かす際は互いに布を持ち合うなど、活動の中で協力する場面を設定することで、一緒につくるという気持ちをもつことができるようにする。 ○ 活動中、うまくできたことや頑張ったことをできる限り称賛することで、自信をもって活動できるようにする。 |
| (10) | 3 本時の活動を振り返りながら、次時への意欲を高める。 | ○ 手順カードを確認して見通しをもつことで、最後まで他のことに気持ちを移さずに模様づくりを楽しむことができたか。 ○ 本時と同じ手法で模様を付けたTシャツを見せることで、自分たちもつくってみたいという気持ちをもつことができるようにする。 |